



第 363 号

平成30年 7月 4日発行

- ・ 巻 頭 言
- ・ 第69回全日中総会報告
- ・ 地区だより・論文
- ・ 文芸・さりながら
- ・ 特別寄稿・大会案内
- ・ 地区研・事務局日誌



(顧客満足度) ≤ (従業員満足度) という視点

北海道中学校長会 副会長 木 谷 貢 一

8年前の教頭時代、東京での全国公立学校教頭会（全公教）中央研修に参加した際に聴いた、ネットヨタ南国の人事担当：大原光泰氏（現ビスタワークス研究所代表取締役）のお話が、その後の私の管理職としての指針となりました。

この会社は、「社員第一主義、人間性尊重の経営」で注目を集めており、近年では、全国のトヨタ販売会社（295社）の中で、顧客満足度ナンバーワンを連続達成しています。「日本で一番大切にしたい会社2」（2010年、法政大学大学院教授 坂本光司氏著）にもその斬新な取組が紹介されており、当時の会長（現取締役相談役）横田英毅氏は、「私たちは車を売ることが目的としてはいません。より大切なことは、社員が幸せに働ける会社をつくることです。そうすればお客様にとっても、自然に満足度の高い会社になるのです。仕事にやりがいを感じ、所属する組織に誇りと喜びを感じている社員は、お客様に心から喜んでもらえるサービスを提供しようと考え行動するのは自然だからです。」と話されています。「子供が通いたくなる学校、保護者が通わせたい学校、地域から信頼される学校、職員が働きたい学校」づくりが目標としてよく語られます。本校

もその一つです。ただし、私が思うのは、その理想に（特に最初の三者の理想に）近づくために職員に過度の負荷がかかるのは不本意であるということです。誰かの犠牲の上に誰かの幸せが成り立つという姿には、歯がゆさを感じます。

過労死という痛ましい事実があり、ブラック企業という言葉が注目され、日本の教員の献身的な姿勢が国の発展に寄与してきたことがようやく世間にも広く理解されるようになっていきます。働き方改革の方向性は、今なら保護者や社会が理解してくれるでしょう。しかし、ただ単に教員の負担軽減にのみ目が行くのではなく、全日中の考え方として今年5月の総会でも直田益明（前）会長が話されていました、「教員が誇りと喜びをもって職務に従事できるよう、教員の本来業務に専念できる環境を構築することが最も大切」ということだと思います。

自校を振り返ったときに、縁があつて一緒になった職員一人一人を大切に、少しでも意欲の向上に結びつくように努めよう、それはきっと子供たち一人一人の教育に還元され、「本校に関わる全ての皆さんの幸せにつながる」と信じて、職を全うしようと考えています。

第69回
全日本中学
校長会総会

第69回全日本中学校長会総会が5月24日、25日に開催された。東京・国立オリンピック記念青少年総合センターを会場に、第1日目は187名の代議員とオブザーバー・役員等が参加した。会長挨拶に続き、文部科学大臣等の祝辞が述べられた。議事では、下記の案件が審議、承認され、宣言・決議を採択した。2日目には文部科学省大臣官房審議官（初等中等教育局担当）の講演があり、その後文部科学省行政説明が行われた。

〔第1日目 5月24日(木)〕

○議事

1 平成29年度会務報告

総務、会計、教育研究、教育情報、生徒指導、編集、事業、予算対策、給与対策の各部および東日本大震災支援委員会、記念行事委員会、記念出版委員会より

2 平成29年度決算報告

3 平成30年度役員選出（会長及び道中関係分）

会 長	東京都豊島区立千登世橋中学校	山本 聖志
副会長	留寿都村立留寿都中学校	槁本 直樹
理 事	札幌市立宮の森中学校	木谷 貢一
理 事	札幌市立北栄中学校	高橋 寿輔
理 事	函館市立深堀中学校	蓮本 裕一
総会議長	猿払村立拓心中学校	吉田 瞬壱

4 平成30年度活動方針

5 平成30年度予算

6 2019年度第70回全日本中学校長会研究協議会
群馬大会開催地

開催地 群馬県前橋市

開催日 2019年10月24日(木)、25日(金)

7 2019年度第70回全日本中学校長会研究協議会
群馬大会主題・分科会研究題

・研究協議会主題

「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を創り
出していく日本人を育てる中学校教育」

・分科会研究題（担当地区）

- (1) 「カリキュラム・マネジメント」の推進（関東甲信越）
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現（中国）
- (3) よりよく生きようとする意思や能力を育む道徳教育の充実（北海道）
- (4) 健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを実現するための教育の充実（近畿）
- (5) 社会的・職業的自立に向けたキャリア教育と進路指導の充実（九州）
- (6) 自他を敬愛し他者と協働しながら自己実現を図るための自己指導能力を育成する生徒指導の充実（四国）
- (7) 多様化した学校教育課題に対応できる教員の育成（東海北陸）
- (8) 地域との連携・協働による「チーム学校」の実現（東北）

8 宣言・決議

○講演 【当面する初等中等教育上の諸課題】

講師 文部科学省大臣官房審議官（初等中等教育局担当）
白間 竜一郎 氏

〔第2日目 5月25日(金)〕

○文部科学省行政説明

説明 教育課程課・財務課・特別支援教育課・児童生徒課

○皇居特別参観

宣 言

今日、我が国の教育は人格の完成を目指し、伝統と文化を尊重するとともに、豊かな人間関係で満たされる社会を創るたくましい日本人を育成する使命を担っている。

私たちは、新しい時代の中学校教育の課題に対応し、教育基本法をはじめとする関係法規、学習指導要領等の趣旨を踏まえ、自らの責任において全日中教育ビジョンに基づく学校からの教育改革を推進し、教育の真価を示さなければならない。

全日本中学校長会は、教育改革の推進と当面する諸課題の解決に努め、新たな中学校教育の創造を目指し、国民の信託に応えることを宣言する。

決 議

第69回総会にあたり、以下の事項を決議し、その実現を期する。

- 一、人間尊重の精神に徹し、「社会を生き抜く力」を育む教育に努める。
- 一、全日中教育ビジョンを踏まえ、学習指導要領に基づく特色ある教育課程を編成・実施・評価・改善し、確かな学力の定着、豊かな心と健やかな身体の育成に努める。
- 一、現在の学校教育課題に即した研修を充実し、教職員の資質・能力の向上と使命感の高揚に努める。
- 一、創意ある教育活動を展開し、家庭・地域社会の信頼に応える教育を実現するため、人的措置をはじめ確固とした教育条件の整備・充実を期する。
- 一、「教科書無償給与制度」「義務教育費国庫負担制度」及び「人材確保法」の堅持を要請し、教育水準の維持向上を期する。
- 一、東日本大震災をはじめ災害等により被災した地域の復興を期し、教育活動の充実に向けた支援と全国各地区・各学校における防災教育の充実を努める。

平成30年 5 月 24 日
第69回 全日本中学校長会総会

第69回

全日本中学校
校長会総会

平成30年 5 月24日

会 長 就 任 挨 拶

全日本中学校長会 会長 山 本 聖 志 氏



ただいま、全日本中学校長会第42代会長としてご承認いただきました、東京都豊島区立千登世橋中学校長 山本聖志でございます。新役員を代表いたしまして、一言ご挨拶申し上げます。

本日ここに、皆様のご承認をいただき大役を仰せつかりましたことは、身に余る光栄でございます。何分、微力であり、若輩ではございますが、全国の公立中学校長によって構成される本会の目的を達成するため、全力で、会長としての責務を果たしてまいり所存でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

この1年間、全日本中学校長会のためにご尽力いただきました直田益明会長をはじめ、副会長、理事、そして幹事の皆様、本当に有り難うございました。また、お疲れ様でございました。

昨年度、中学校教育70年記念東京大会を成功裡のうちに終了することが出来ました。全国の会員の皆様からご協力を賜りましたことに心より感謝を申し上げる次第です。今年は、次の10年に向けた最初の一年となります。そのスタートにあたり、改めて、本会の意義、目的を確認してまいりたいと思います。

昭和52年5月に制定された「全日本中学校長会綱領」は、冒頭、次の様な言葉で始まっています。「われわれは 校長の使命に徹し 結束して中学校教育の振興に努め もって国民の信託に応える」。『使命に徹する』『結束する』『中学校教育の振興に努める』『国民の信託に応える』とありますように、我々、中学校長に課せられた使命が端的に表現されております。また、全日本中学校長会会則の第2条には「本会は、全国各都道府県中学校長会相互が緊密な協調を保ち、中学校教育の振興を図り、国家社会の発展に寄与することを目的とする」と明記されています。仮に崇高な使命感が個々にあっても、緊密な協調がなくては、中学校教育の振興及び国家社会の発展に寄与することは出来ません。さらに、会長の役割について、会則第10条には、「会長は本会を代表して会務を統理する」とあります。「統理」が意味するところの、まとめること、治めることについては、甚だ僭越な部分もございますが、全国中学校教育の充実・発展を図り、各都道府県校長会との連携を図りながら、先に申し上げました目的達成に向けて尽力して参りたいと存じます。是非とも、副会長はじめ各理事の皆様、部長及び幹事の皆様、そして全ての会員の皆様のお力添えを、心よりお願い申し上げます。

ここで、当面、全日本中学校長会として取り組んでまいりたいと考えていることを3点述べさせていただきます。

1点目は、新学習指導要領の円滑な実施に向けた取組です。

昨年3月の告示を受け、全国の各中学校では現在、移行措置期間の取組が始まっており、全面実施に向けた準備にも余念のないことと存じます。

これからの時代は、予測不能の時代と言われています。既に、知識基盤社会の到来、情報通信技術の急速な進歩、社会・経済のグローバル化など、社会状況は劇的な変化を遂げています。一方で、少子化の傾向が加速し、学校の統廃合や小規模化によるカリキュラム実施上の困難さをもたらす、超高齢化の進行は、様々な分野における構造的な改革を突きつけています。こうした時代状況を踏まえた、パラダイムの変換を果たすため、学習指導要領の趣旨を教育課程の中に着実に落とし込み、円滑な実施を果たすことが私たち校長会の役割として重要です。道徳の評価への対応や教職員定数の改善など、取り組むべき課題も数多くあります。私たち全日中は、これまで、学習指導要領の策定にあたり、大きな役割を果たしてまいりました。その役割を継承し、学校からの教育改革を更に推進することをもって、国民の信託に応えてまいりたいと考えます。

2点目は、学校における働き方改革への対応です。

昨年6月、教育再生実行会議から第10次となる提言が示されました。学校、家庭、地域の役割と責任、社会全体で子供を育てることの必要についてふれながら「しかしながら、今日の学校教育の現場に目を向けると、教師の多忙化が頂点に達しようとしています。」と言及しています。教員の仕事が「多忙」なのは事実です。しかし、学校を取り巻く状況は、全く予断を許しません。働き方改革を条件整備の面で捉えるのか、意識改革の面で捉えるのかによって、方向性はやや異なるものと思いますが、多忙化している事実を捉えながらも、多忙感に打ちひしがれる教員が出ないように、制度設計を含めしっかりと見つめていくことが肝要です。そして、働き方改革の行く先が、結果として、全ての生徒の輝く未来につながるよう、引き続きこの問題について、現場感覚、現場発信の視点から取り組んでいく必要があると考えております。

3点目は、「全日中教育ビジョン」の推進です。

全日本中学校長会が全日中教育ビジョン「学校からの教育改革」を提示・公表したのは、平成21年10月のことでした。以来、二度の改訂を踏まえ今日まで来ております。このビジョンについては、全国の中学校長会が、一斉に取り組むことに大きな意味があります。理念にとどまることなく、着実に推進を図り、達成の度合いを検証していく必要があります。

ビジョンの検証や評価の手法の一つに、全日中の各々が毎年実施している調査があります。この調査による結果は、教育ビジョンが示した目標に対して各学校が取り組んだ成果を表すとともに、教育諸条件の整備の根拠（エビデンス）となるものです。今年度も全国各都道府県の中学校長会と緊密な連携を図り、全日中教育ビジョンの具現化に取り組んでまいるとともに、今後の改訂時期の在り方や内容について検討してまいります。

中学校教育を巡る課題の中には、全国に共通のものもあれば、各地区・自治体ごとに個別の課題があります。東日本大震災や熊本における地震被害など、甚大な被害を被った災害の教訓を決して忘れず、後世に残すことについて、私たちに記憶の風化の防止に取り組む義務があります。全日中が力を結集して進む道は、我が国の中学校教育の過去に足跡を残すとともに、未来を切り拓きます。今後とも、各地区の校長会や事務局と連携し、全国の会員の英知を結集して取り組んでまいろうではありませんか。

結びになりますが、本会の充実に向け、これまでの歴代会長はじめ諸先輩方が築かれ継承されてこられたことを受け継ぎ、「実践もあり理論もある有言実行の教育の実践的専門家集団」としての役割を果たすため、全日本中学校長会長として皆様とともに歩んでいくことをお誓い申し上げ、就任の挨拶といたします。

第69回

全日本中学
校長会総会

講 演

当面する初等中等教育上の諸課題（要旨）

文部科学省大臣官房審議官（初等中等教育局担当） 白 間 竜一郎 氏

**1 新学習指導要領について**

今回改訂した幼稚園教育要領，小・中学校学習指導要領，高等学校学習指導要領は，「知識・技能」，「思考力，判断力，表現力」，「学びに向かう力，人間性等」，「社会に開かれた教育課程」，「カリキュラム・マネジメント」，「主体的・対話的で深い学び」という考え方に立った一貫したものになっている。

2 情報活用能力について

情報活用能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成するため，各教科等の特性を生かし，教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るために，各学校において，コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え，これらを適切に活用した学習活動の充実を図ることに配慮することが総則に小中高共通で書いてある。学習の基盤となる資質・能力としての情報活用能力を育成するためにICT環境が必要であるということを，現場の声として，教育委員会等にお話しいただきたい。

3 道德教育について

「特別の教科 道德」の具体的なポイントとして，①検定教科書を導入すること，②いじめの問題への対応の充実，③発達の段階をより一層踏まえた体系的なものに改善すること，④問題解決的な学習，体験的な学習を取り入れ，指導方法を工夫すること，⑤数値評価ではなく，児童生徒の道德性に係る成長の様子を認め，励ます評価（個人内評価）を記述式で行うこと，⑥内申書に記載しない，入学選抜には使用しないことがある。「考え，議論する道德」は，「道德的な価値のことはわかっているが，どう実現するのか，実現しようとする自分とできない自分というものをどう考えるのか」とか「複数の道德的な価値の間で対立した問題をどう考えるのか」というものを目指している。評価については，「学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へ発展しているか」，「道德的な価値の理解を自分自身とのかかわりの中で深めているか」といった点を重視していただきたい。適切な教材や効果的な指導方法については，道德教育アーカイブの映像資料をぜひ活用いただきたい。

4 外国語教育について

外国語についても，小中高，大学入試，大学に向けて一貫した形で4技能（聞くこと，読むこと，話すこと，書くこと），5領域（聞くこと，読むこと，話すこと[やり取り・発表]，書くこと）を育てていく。具体的に中学校では，互いの考えや気持ちなどを外国語で伝え合う対話的な活動を重視することや，具体的な課題を設定するなどして，学習した語彙，表現などを実際に活用する言語活動を充実する，授業は外国語で行うことを基本とするということを想定し，小学校の学びを高等学校につなげていただきたい。生徒，先生方の英語力の向上にもご協力願いたい。

5 先生方の働き方改革について

平成29年6月22日，中央教育審議会に学校における働き方改革に関する総合的な方策について諮問した。審議事項として，どこまでが学校がやるものなのかということをもまず議論した上で，それをどう分担しながらやるのか，教員がやるのか，事務職員の方をお願いする部分なのか，あるいは専門のスタッフなのか，もっと他の方にも入っていただくのかということをも議論していただき，管理職の意識改革も含めた効果的な学校マネジメントの体制をどう構築していくのかを諮問している。12月22日には学校，教師が担うべき業務の明確化・適正化ということで中間まとめをし，26日には学校における働き方改革に関する緊急対策を取りまとめた。そして，平成30年2月9日付で，学校における働き方改革に関する緊急対策を策定したことと学校における業務改善，勤務時間管理等に係る取組の徹底をお願いする事務次官通知を発出した。中央教育審議会には働き方部会という特別な部会があり，そこで現在，管理職が組織マネジメントに注力できる学校組織の在り方として，個業タイプの組織運営から分散型の組織運営というものを進めていくべきではないかという議論がある。

6 文部科学省の組織再編について

現行の「生涯学習政策局」が「総合教育政策局」に衣替えをし，「生涯学習政策局」の「情報教育課」が「初等中等教育局」に移り，「情報教育・外国語教育課」になるなど，平成30年10月以降文部科学省の組織再編がある。

新たな時代を切り拓く 「学びをつなぐ学校づくりの実現」をめざして

石狩・北広島東部中 **出村 好孝**

石狩管内小中学校長会は、新会員12名（小-9、中-3）を迎え、5市1町1村102名（小-65、中-37）で今年度の活動をスタートした。

本会は、教育改革の理念を踏まえた適正な学校経営を進め、学校力向上のための具体的な取組を推進している。その柱となるのは、市町村単位、A・B二つのブロック、そして春季・秋季の全体研修であり、これらを通して校長としての職能向上に努めている。関係機関や団体との連携も大事にしながら、石狩の風土に根ざした教育を推進していく。

【活動方針】

- 1 信頼される学校経営のもと、管内教育の安定と充実・発展に努める。
- 2 職能向上をめざす研修活動の推進と教職員の資質向上に努める。
- 3 管内における教育諸課題を把握し、その解決に努める。
- 4 教育諸条件の整備・充実と教職員の処遇改善や福利厚生への推進に努める。
- 5 組織の強化と実態に即した会務の推進に努める。
- 6 会員相互の交流活動の推進に努める。

組織と機能を一層充実させ、 研さんと職能の向上を目指す「学び合う校長会」

札幌市・羊丘中 **富川 浩**

札幌市中学校長会は、4月に23名の新しい仲間を迎え、蛭名嘉津夫新会長の下、以下のような活動方針で今年度の活動をスタートした。

「札幌市教育振興基本計画」及び「札幌市学校教育の重点」を十分に踏まえ、「自立した札幌人」の育成を目指し、子供たちの未来のために「知・徳・体の調和のとれた育ち」「札幌らしい特色ある学校教育」等の充実・発展に取り組んでいる。

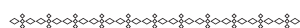
特に今年度は、「いじめや不登校等の解消に向けた取組」「体力と運動能力の向上」「規範意識・情報モラルの醸成」「学校評価や学校職員評価に関する課題」「学校における働き方の見直し」等に一層真摯に取り組み、「学び合う校長会」を意識した組織と機能を一層充実させながら、校長としての研さんと職能の向上を目指すこととしている。

【平成30年度の活動の重点】

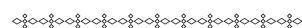
- 1 校長会の組織・運営の強化と研修の充実
- 2 学校経営の改善と充実
- 3 学校経営の条件整備と教職員の待遇改善
- 4 教育関係機関や諸団体との連携強化

【研究活動】

『未来を築き、ともに社会を創る力を育む札幌市中学校学校教育』を研究基本主題に掲げ、「在り方」から「充実」そして「深化」という段階を踏んだ3カ年継続研究の取組の最終年度を迎えている。



地 区 だ よ り



連携を意識し、「一人一人の校長を支える」 後志小中学校長会

後志・銀山中 **中村 寿樹**

後志小中学校長会は、小学校長39名、中学校長24名、計63名で構成している。一人一人が明確な経営ビジョンを持つべく鋭い時代感覚を磨きながら、創意ある取組と組織の活性化を図っている。

保護者や地域社会の負託と信頼に応えるとともに後志教育の充実・発展に寄与しようと活動している。

【活動内容】

- 1 学校経営の充実
- 2 教育課程の充実
- 3 生徒指導・特別支援教育の充実
- 4 研究活動の充実
- 5 教職員の資質向上
- 6 教育諸条件の整備
- 7 教職員の処遇改善
- 8 校長会組織の強化と活動の充実

【活動の重点】

- 1 「生きる力」を育む「社会に開かれた教育課程」の編成・実施・評価・改善の推進
- 2 教頭・主幹教諭・ミドルリーダーの育成を目指した研修等の充実
- 3 教職員の法令遵守、服務規律の厳正な保持に向けた管理職研修の推進
- 4 町村教育委員会と校長会の連携強化

「自立した強さとつながり」に向けて

小樽市・桜町中 **岡本 清豪**

小樽市中学校長会は、市の方針「知・徳・体のバランスのとれた人材の育成」に則り、小樽の未来を託すことのできる人材育成を目指す教育推進のため、真摯に研究と実践を積み重ね、着実に成果を上げてきている。

今年度は基本姿勢を「自立した強さとつながり」とした。その実現に向け①見通しを持って課題に取り組む「先見力」②共に支え、学び高め合う「結束力」③課題解決に向けて着実に取り組む「行動力」を柱にしながら、選択と集中により実践と検証を進めていく。

【活動方針】

- 1 市の教育ビジョンを基盤とした着実な取組
①選択と集中による実践・検証
- 2 三つの部の充実 ①研究内容の充実 ②学び合いの深化
- 3 自主自立の確立 ①校長としての使命を自覚した自立した学校経営

【活動の重点】

- 1 小中連携による中1ギャップの解消
- 2 学校の運営組織の整備
- 3 教職員の人材育成
- 4 情報交流の工夫
- 5 生徒の学力・学習意欲の向上

子供のために最善を尽くす校長会

釧路・茶内中 **松 村 浩 二**

釧路校長会は、12名の採用校長を迎えました。釧路管内の小中学校長25名、中学校長18名、小中併置校長4名、義務教育学校長1名の総勢48名で構成されています。今年度、大澤昭仁会長を中心に、「5項目の方針」を確認し活動を開始しました。

【運営方針】(要約)

- 1 「釧路の風土に根ざす学校づくり」の経営感覚を磨き、職能の向上に努め、諸課題を解決する。
- 2 地域や保護者の信頼や期待に応え、「子供たちや教職員が明るく、楽しく学べる環境づくり」を志向する学校経営に努める。
- 3 現行の学習指導要領並びに移行期間となる次期学習指導要領に基づいて、これからの時代に求められる資質・能力など児童生徒の「生きる力」を育む教育課程を編成・実施・評価し、改善を図りながら自校の課題解決にあたる。
- 4 教育関係団体、特に町村教育委員会と町村校長会との連携協力を密にし、教育の動向や情報の共有と諸課題への対応・解決に向け、迅速に行動するよう努める。
- 5 円滑な学校経営を目指し、釧路校長会綱領の趣旨に基づき、会員個々の意識を高めるとともに相互の絆をより一層深められるよう努める。

強い連帯意識をもち、今日的諸課題に積極的に取り組む校長会

釧路市・春採中 **阿 部 典 子**

釧路市中学校長会は、新会員3名(新採用2名)を加えた15名の会員で、今年度の活動をスタートした。室山会長の強いリーダーシップのもと、釧路市教育推進基本計画や釧路市教育行政方針を具現化するため、校長相互が強い連帯意識をもち、今日的な諸課題に積極的に取り組む校長会を目指していく。

【活動方針】(要約)

- 1 「命の尊さ」を第一とし、危機管理意識の醸成及び危機管理への対応を継続的に取り組む。
- 2 「社会に開かれた教育課程」の実現とともに「カリキュラム・マネジメント」の取組を推進する。
- 3 服務管理の適正化に努め、秩序ある学校運営を推進する。
- 4 自らの研鑽と教職員の資質向上を高める工夫と意識改革に努める。
- 5 職能、専門性を高める研修を組織的に推進する。
- 6 諸課題に対し情報共有し、一枚岩で取り組む。
- 7 会の独自性を発揮し、効果的組織運営に努める。
- 8 行政及び関係機関との連携を密にし、学校運営上必要な諸課題の整備促進に努める。
- 9 組織の充実と会員相互の結束強化、親睦を図る。

地 区 だ よ り

子供の夢を語り合う「チーム根室」

根室・柏陵中 **志 道 仁**

根室管内小中学校校長会は、新採用校長5名を迎え、「継承と発展」を合い言葉に、管内教育を推進していく。特に今年度は、全42校の校長が「チーム根室」を強く意識し「根室の風土を生かし、心豊かにたくましく生きてはたらく力をはぐくむ社会に開かれた学校教育の創造」を目指して活動する。

【活動方針】(要約)

- 1 教育をめぐる諸情勢を的確に捉え、校長の抱える問題を組織として共有化を図る。
- 2 信頼される公教育の確立を図り、関係機関と連携しながら適切な対応に努める。
- 3 校長の学校経営力の向上を図り、地域に開かれた学校経営の改善・充実に努める。

【活動の重点】

- 1 家庭や地域社会に信頼される学校づくりの推進
- 2 社会に開かれた教育課程の実現を図る教育課程の編成・実施と評価・改善
- 3 研修活動の推進
- 4 教育諸条件の整備・充実の推進
- 5 教職員の待遇改善の推進
- 6 校長会業務の推進と組織の強化の推進

「信頼されるオホーツク教育」の創造へ志を高く掲げ、力強く前進する校長会

オホーツク・網走第一中 **北 野 浩 幸**

オホーツク管内小中学校長会は、前年度の中途採用を含めて18名の採用校長を迎え、総勢126名の会員で平成30年度をスタートした。

4月14日には総会を開催して菊野淳一新会長を選出し、管内教育の充実・発展に鋭意努力を重ねていく決意を新たにしました。総会では、会員相互の協力・信頼関係を一層深化させ、管内教育をめぐる諸課題と具体的解決策を明確にし、解決に努めるなどとした4点の活動方針を確認し、あわせて6項目の活動内容を重点として課題解決に取り組むこととした。

【活動方針】(要約)

- 1 校長としての使命を自覚し、時代の要請に対応する主体的な組織を確立する。
- 2 職能研修を充実し、情報を交流・共有することにより学校運営の改善・充実に努める。
- 3 関係諸機関と連携を強化し、課題解決に努める。
- 4 管内研究大会に主体的に参加し、職能の向上と大会成功に努める。

【活動の重点】

- 1 学校経営の充実
- 2 教育課程の編成・実施と評価・改善
- 3 生徒指導の充実
- 4 研修活動の充実
- 5 組織の強化
- 6 校長会上部機関との連携による諸課題の解決

〈論 文〉

安平町追分地区小中一貫教育 ～夢を叶える力の実現を目指して～

安平町立追分中学校 中 村 浩 士

1 はじめに

旧早来町と旧追分町が平成18年に新設合併し、安平町は誕生した。人口は約8,000人、胆振北東部、直線で新千歳空港から14km、苫小牧港から27kmの位置にある。基幹産業は農業であり、アンガス牛やチーズ等の乳製品、アサヒメロンが名産である。競走馬生産も大変盛んであり、三冠馬のディーピンパクトはこの町から生まれた。安平町では学校運営協議会が全ての学校種に設置されている。また、幼小中高の連携を強力に推進している。追分地区には、認定子ども園1園、小学校1校、中学校1校、高等学校1校が半径約200mの範囲内に設置されている。そのため、義務教育である小中学校の地域教育拠点としての存在は大きい。この小中学校1校の特性を生かし平成28年度より小中一貫教育の準備をはじめた。ここでは、「追分地区小中一貫教育の取組」について、これまで本校が実践してきた一端を紹介する。

2 小中一貫教育の目標

小中一貫教育で目指す15歳の姿を①自ら学び、考え、表現する生徒（知）、②思いやりをもち、協力しあう生徒（徳）、③生活習慣を見つめ、健康づくりや体力づくりをする生徒（体）の3点を定め、この目指す姿達成の土台となる力を「夢を叶える力」と設定するとともに、小中一貫教育のスローガンとした。

3 「夢を叶える力」実現に向けて

①基礎学力の向上（乗入授業実施、9年間の学習の約束等）、②コミュニケーション能力の向上（各教科等における言語活動の充実等）、③基本的生活習慣・体力の向上（合同行事、9年間の生活の約束等）、これら3つの力を向上させることにより、「夢を叶える力」の実現に迫るため、平成29年度より、小中教員全体で年間4回の小中一貫部会と小中一貫推進委員会を実施し、取組内容等の協議を進めている。

4 現在までの取組について

追分地区小中一貫教育実施に向けて、平成28年度より3カ年計画で小中学校と教育委員会が連携と推進を図った。

（1）平成28年度の取組

教育委員会より教育長、教育次長、学校より追分小中学校長・教頭、町内校長会会長・学校改善推進委員長による小中一貫教育準備会を設立した。

北海道教育庁学校教育局義務教育課 学力向上推進G指導主事 木村理希氏による小中一貫教育説明会（8月）、三笠市立萱野中学校や沼田町立沼田小中学校への先進校視察（11月）を通して、小中一貫教育推進に向けた調査研究を重点とした。

（2）平成29年度の取組

小中一貫教育準備会は終了し、追分小中教職員による小中一貫推進委員会、校務及び教科部会を設立した。北海道教育庁学校教育局義務教育課 学力向上推進G主幹 川端香代子氏の講話（4月）、沼田町立沼田中学校長 小川勉氏の講話（7月）、両校教職員による小中一貫教育全国サミットin京都への参加（1月）を通して、小中一貫教育への理解や実践力を深めた。また、算数科を中心とした年間260時間（含：国語、理科、体育、音楽）の乗入授業、各教科による9年間の学びのつながり及び学習と生活の約束を完成させた。

（3）平成30年度の取組（小中一貫教育開始）

- ・乗入授業の推進
外国語科を中心とした年間300時間以上（含：国語、理科、社会、算数、体育、音楽、家庭）
- ・総合的な学習の時間、特別の教科道徳の9年間の学びのつながり作成
- ・小中合同研修の推進
- ・小中合同ボランティア活動の展開

5 まとめ

本校は平成29年度に小中一貫教育加配により、教職員数は1名増となった。しかし、何をするための加配であるのか、小中一貫教育で具体的に何をするのか、「What：何を」の説明が浸透していない教職員集団の中、私は校長として着任をした。

忘れもしない着任早々に開催した小中教職員が会した合同会議は、中学校側の教員に対する説明不足により大紛糾に終わった。小中一貫教育のねらいは、9年間の学びの連続性を支える仕組みの構築による「義務教育の質の向上」であることを教職員に訴え、小学校教諭は中学校の学習内容を理解した上で、中学校教諭は小学校の学習内容を理解した上での学習指導、これがまさに「身近な小中一貫教育」であり、学力向上につながるものと自信を持って教職員に伝えながら教職員の意識を変えとともに、現在は、「追分地区小中一貫教育」の新たなスタート地点に立っている。

文 芸

次世代につなぐふるさとへの想い

新十津川町立新十津川中学校 國 行 宏 昭

今年は、私達が住む、広大な北の大地が「北海道」と命名されてから150年にあたる節目の年。道内では、150年を記念した様々なイベントが計画されています。

私が勤務する新十津川町の歴史は古く、奈良県十津川村の水害で甚大な被害を受けた当時の村民が、新天地を求め、北海道に移住し「第二のふるさとの建設を」という人々の想いによってできた街です。その想いは新十津川町という町名からも感じます。

先日、町内で平成3年にテレビ放送された「新十津川物語」の再放送のパブリックビューイングがあり、鑑賞してきました。このドラマは、故郷十津川村をやむなく離れ、北の大地への移住を決意した人々の愛郷心、人間愛を描いた文学作品をテレビドラマ化したものです。ふるさと十津川村を想い、荒れ果てた原野を切り拓きながら懸命に生きていこうとする人達の強さ、たくましさ切なさを、今をときめく多くの名優達が演じていました。この日、会場に来ていた町内の方々には、ドラマを見ながら自分たちもエキストラとして、参加したシーンや見慣れた

風景の映像を懐かしそうに見ている姿が印象的でした。

今、本校の屋上からはどこまでも続く、広大な水田が見えます。この風景を見ていると、かつて原生林だったこの地を切り拓き、農作物が育つまでの土地を作った十津川村から移り住んだ人々の強さとたくましさを感じます。「第二のふるさとの建設を」という強い思いで新十津川町を築いた先人たちのように、本校の子供たちにもまわりの人との繋がりの中で学び、ふるさとを愛し更なる街の発展に向け、自分には何ができるのかと、より良い社会と幸福な人生を自ら創り出していける人として成長させていかなければならないと改めて感じさせられます。

今年も母村、十津川村の子供たちと、新十津川町の子供たちの交流事業が行われます。かつての大災害によって十津川村に残り、村を立て直すために力を尽くした人達、北に渡り第二のふるさとをつくりあげるため力を尽くした人達、それぞれが創りあげた街の子供たちが一層そのつながりを強く感じ、互いに良い刺激を与え合う交流会になるだろうと今から楽しみにしています。

文 芸

「あなたのように」

旭川市立広陵中学校 上 中 芳 昭

教育公務員も例外なく、ダメ出しを食らっている。ダメなものはダメだから、心しなければならない。学校を取り巻く子供や保護者の様相も変化して、昭和基準では推し量ることのできない事例も伝え聞く。しかし、教師が目当たりにする日常のほとんどは、そうした「ダメ」とは対極的な人々に支えられ、今も昔も変わらない普通の人々の営みによって教育が成り立っているのである。

例1 家庭訪問。花壇作業の手を止め、わざわざ帽子を取り、「孫を頼みます」と深々と頭を下げた祖父。責務の大きさを痛感した若い教師。

例2 息子の友人達を厳しくしつける母親。良い悪いの基準が、自分に対するものと変わらない様子を見て、ニヤツとする息子。友人達は、「怒られて」も、また、ちゃんと遊びに来る。

例3 我が子の学芸会や日曜参観にも行けず、部活動指導にあけくれる教師。運動会すら席はいつも外トイレの近く。けっして望ましい父親像とは言えない。「本務ではない部活動になぜ、そこまで?」「部活動の指導は自分のため。本務がうまく行くなら、何でもやる。妻には、感謝しかない。」

例4 乱雑な教室に耐えきれず、ついに朝から

整理整頓、清掃の女子生徒達。「ウチらの担任、だらしないからねえ」。生徒が本気になるとすごい。中学生は、教師や親が見ているほど子供ではない。

例5 生徒の休み時間に一服してから授業へ、が一般的だった30年前から、「始業開始のベルは生徒とともに教室で聞くべし」を実践している学校。問題行動はほとんど0を維持するために、学校が取り組んでいることは、あたり前の連続だった。

「昔に比べて、学校、教師、親、子供は、ダメになった」と言われるが、ダメの背後には、いつもこうした人々の地味な取組があることを、いつまでも忘れないようにしたい。

あなたのように
つよい人で やさしい人でありたい
前を向いて 大きい人でありたい
迷う時には道しるべに
闇を照らす灯台に
そこにいてくれて ありがとう
ありがとう ありがとう
「あなたのように」／Dreams Come True



私が教職についてから38年目となった。初任のときの研修会講話で、今でも印象に残っている言葉がある。それは、「教師は子供の100倍の能力をもたなければならない。」という言葉であった。当時の私は、子供の10倍なら何とかできるけど100倍は無理ではないかと感じたが、教職経験を重ねるごとに、この「100倍の能力」の重みがわかってきたように思う。子供たちにとって教育における最大の環境は教師であり、それゆえに教師には絶えず研究と修養に努めなければならない、と教特法では定められている。教科や生徒指導、学級経営、分掌業務、保護者・地域・学校間連携、そして自身の人間力の向上など日々の業務や生活そのものが研修と結びつく。教師としての職責を果たすためには、教師そのものの資質向上が不可欠であり、時間はいくらあっても足りない。私自身、未だに100倍の能力を身に付けるまでには至っていない。

さて、ここのところ働き方改革が進められる中、学校現場でも教職員の時間外勤務時間の超過が問題になっている。教職員が心身ともに疲れきってしまっは子供への指導も半減してしまう。教師が学校という組織にあって、100倍の能力を最大限

100倍の能力

鷹栖町立鷹栖中学校 中 村 庄 二

に発揮させるための学校経営手腕が、働き方改革の側面からも問われている。それが単に定時退勤日や部活動休止日の設定だけに留まっては改革が進まないと思う。私は学校課題の解決のために、年度の重点とその方策を明確にすること、つまり年度のゴールを全教職員で共有することにあると考える。

本校の課題は不登校傾向にある生徒への対応、未然防止である。全生徒からアンケートをとり集計結果の分析から学習に対する困り感のある生徒への対策が未然防止につながると方針を決めた。具体的には、授業改善、個に応じた支援、家庭学習の充実などこれまで実践してきた活動を見直し、取組の重点化を図った。年度途中にも同じアンケートを実施し、生徒の変容を見とりながら取組を進めていくことにした。学校の教育活動は数多くの業務があり、どれも手を抜くということはできないが、重点を絞ることによって教職員の負担感を軽減したり、効率性を高めたりすることができると考える。あれもこれもでは100倍の能力は発揮できない。私自身も100倍の能力に迫りたいと思っている。



鼻濁音（びだくおん）！？ 普段あまり耳にしない言葉だと思うが、発声・発音の一つで、日本語の“美しい響きの発音”とされているものである。

日本語は音と音がつながって言葉を成している。

そもそも鼻濁音とは、日本語の「が行」にのみある発音の仕方で、鼻から抜ける濁音、もしくは柔らかく鼻に抜けるような感じの発音のことをいう。「が行」のみ2種類の発音があり、一つは濁音と言われる普通の「ga gi gu ge go」。もう一つが鼻濁音で「nga ngi ngu nge ngo」。読み方のイメージは、小さい「ん」を前に付けて発音するような感覚である。音を鼻にかけて発音してみると音の違いがはっきりする。実際にどんな言葉に鼻濁音が含まれているかという点、「かがみ」「おにぎり」「まぐろ」「わたげ」「りんご」などがある。「うさぎとやぎが次々（つぎつぎ）と出てきた」の文章中の「が行」は全て鼻濁音の発音となる。また、「私が～」のような助詞の「が」は、全て鼻濁音の「が」となる。

いかがだろう、この鼻濁音をさほど意識せずとも日常の中で濁音と使い分け、発音しているのではないだろうか、皆さんも。私自身も濁音と鼻濁

「鼻濁音」～美しい日本語の響き～

浦河町立浦河第一中学校 平 野 秀 一

音を自然に使えていると思ってはいるのだが、時々、若い人たちの会話の中に多少の違和感を覚えるとき、自身の発音を振り返ることをしている。

この鼻濁音、関東以北の人は、もともと使える人が多いのだという。一概には言えないかもしれないが、西日本では廃れてきており、若者を中心に日常生活で使う人は著しく衰退しつつあるという。その原因の一つとして、流行する音楽の影響は否めないという。ニューミュージックと呼ばれる音楽がはやりだした頃から、鼻濁音であるはずの言葉（音）が濁音の発音で歌われてしまっているものもある。

言葉はやはり生き物である。時の移り変わりによって、変化する言葉や失われてしまう表現などがあるのは、仕方のないことなのだろう。ただ、日本語が持つ本来の良さや響きの美しさには触れていたいと思う。“日本語の美しい音”とされる鼻濁音を意識すると濁音との違いから生まれる優しく温かい響きに心地よさを感じることもある。細やかだが、私自身この鼻濁音を意識しつつ話すことで、言葉によるコミュニケーションがほんの少しでも、優しく伝わり合い、温かく感じ合えればと思っている。

(特別寄稿)

子供を信じて待つことの大切さ

稚内市教育委員会

教育相談所長 菅 野 剛

中学は一度も学校に行かず、適応指導教室に通ってくる子がいた。好きなことは魚釣り。室長はひたすら釣りに付き合った。今は定時制で学び「将来は対人援助職につきたい。不登校になった自分だからこそ困っている人を支えられるのでは」という。寄り添うことでその子の中にエネルギーが満ち、歩み始めたのだろう。そういう時が必ず来る。子供を信じ、待つことの大切さを教えてくれる▼発達のエネルギーは子供の中に内在している。それを信じ、寄り添い、支えていく。相談所で不登校の子にかかわり、あらためて強く思うようになった。信じるということは、「子供は有能だ」「課題を乗り越える力がある」という子供観を持つことだと思う。子育ては、植物を育てるのと同じではないか。水をやリ、肥料を施すなど環境を整え植物の力に待つ。植物は自分でぐんぐん伸びていく。ところが現実はどうだろう。早く効率よく伸ばそうと茎を引っ張って根を枯らす愚を犯してはいないか。個性を無視し、梅の木に桜の花を咲かせようとしてはいないか。結果主義がはびこるとそんな間違いを犯してしまう。何ができるか、役に立つかどうか、そんな眼鏡で子供を見てしまう。それは同時に、能力がなければ価値がないというメッセージを子供に送っていることにもなる▼日本の子供は自己肯定感が低いといわれる。つねに評価にさらされ、「自分は役に立たない」「自分は劣っている」「このままの自分ではダメだ」そんなマイナスイメージを膨らませられていることに要因がありそうだ。そうではなく、「生きているだけでまるもうけ」「私の存在それ自体に価値がある」というふうに価値観を転換していく必要がある。「ありのままの自分でいい」「良いところもあれば、情けないところもある。でもそれでいい」そんなふうにあるままの自分を肯定する中で安心感が育まれる▼大谷選手の二刀流挑戦に目が離せない。天賦の才を持っていることは確かだが、それを花開かせる育て方があったはずだ。聞くところによると、小さい頃から「信じてまかせろ」ことを大切にしてきたという。やらされるのではなく、好きで挑戦してきた。それが、今の太谷選手を作り出してきたということか▼アクティブラーニングが始まる。主体的な学びの土台、それは自己肯定感ではないか。信じてまかせ、待つことで自己肯定感を育みたい。

子供たちの体力は向上しているか

羽幌町教育委員会

教育長 山 口 芳 徳

今年は平昌（ピョンチャン）冬季オリンピックが開催された。冬季オリンピックという過去にはほとんどメダルに届かないのが常だったが、今回は過去最多の13個のメダルを獲得し、私もテレビ観戦で連日声援を送った口だが、盛り上がりを見せた。

このことは東京オリンピック・パラリンピックが残すところ2年余りとなり、スポーツ庁が設置され、選手強化などスポーツ界に上げ潮ムードが表れているためかと思う。

一方子供たちの体力はどうか。ちょうどこのスポーツ庁から公表された2017年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を見ると、全国では過去5年のうちで実技種目の体力合計点は最高点をマークし、本道分も依然として全国平均は下回っているものの過去最高点をマーク、その差を縮めたとあった。こちらにも良い結果に見えるが、わが町の子供たちを見てもスポーツ界の様子とはちょっと違うと感じる。果たして子供たちの体力は本当に向上しているのだろうか。そもそも合計点を上げることが目的ではない。だが、全国学テと一緒に、比較対象となる点数ばかりが独り歩きしている感がある。もっと長期的な目で、そして平均点ではない個々の視点で子供たちを見れば、今がかなり深刻な状況ではないかと思う。

われわれの子供時代はどうだったか。学校から帰るとほとんど暗くなるまで外で遊んでいたように思う。もちろん今のようにゲームもスマホもない時代だから体を使って工夫して遊ぶよりなかったわけだが、一日中遊んで疲れを知らなかった。

今の子供たちはスポーツ少年団等に入り早くから指導を受けながらがんばる子、もっぱらゲーム等で運動をしない子に2極化している。確かに前者によって実技種目の記録や体力合計点は伸びているのかもしれないが、そこにも問題が指摘されている。一つの競技だけ続けることは、全体として必要な多様な動きが身につかず、結果として運動能力の向上に結び付かないというのだ。

最近学校で心配されている怪我の多さ、これも自分の体をうまくコントロールできない子供たちが増えているからではないか。そう考えて我が町では今年、北海道では先駆的な取組として始めたコアディネーショントレーニングを再度見直し、重点課題として進めて行くことにしている。

第60回北海道中学校長会研究大会 十勝・帯広大会に向けて

- 1 **基本主題** 『社会を生き抜く力を身に付け、未来を切り拓く日本人を育てる中学校教育』
～恵み豊かな十勝の大地から 時代を担うきらめく子らの 想いをつむぐ学校経営の充実～
- 2 **主 催** 北海道中学校長会
- 3 **主 管** 帯広市校長会
- 4 **副 主 管** 十勝小・中校長会
- 5 **後 援** 北海道教育委員会 十勝管内教育委員会連絡協議会 帯広市 帯広市教育委員会
帯広市教頭会 帯広市PTA連合会 十勝管内PTA連合会
- 6 **期 日** 平成30年（2018年）9月21日(金)、22日(土)
- 7 **会 場** 帯広市民ホール とかちプラザ ホテル日航ノースランド帯広
- 8 **大会概要** 【第1日目】 開会式、全日中会長情勢報告、全日中提案概要説明、分科会、教育懇談会
【第2日目】 文部科学省講話、記念講演、閉会式
- 9 **全日中鳥取・米子大会・提案概要説明**
提案者 せたな町立瀬棚中学校 酒 井 豊 志 校長（檜山地区）
函館市立青柳中学校 松 田 賢 治 校長（函館市地区）

10 分科会提言

分科会	研 究 主 題	提言者	研 究 の 視 点
1	創意工夫を生かした特色ある教育課程の編成・実施	【釧路】（白糠町・白糠中） 水 野 秀 哲 校長	学校や地域の特色を生かした教育課程の編成・実施
2	確かな学力の定着を図る指導と評価	【小樽市】（小樽市・潮見台中） 山 崎 徹 也 校長	保護者・地域と連携した開かれた学校経営
3	豊かな心と健やかな身体を育む教育の充実	【日高】（日高町・日高中） 金 光 宏 明 校長	豊かな心と健やかな身体を育む 小中連携の充実
4	自らの生き方と社会性を育む教育の充実	【旭川市】（旭川市・光陽中） 片 原 俊 光 校長	学校における組織運営や指導の充実を図る研修の充実
5	時代の要請に応える学校経営の充実	【釧路市】（釧路市・音別中） 藤 森 健 浩 校長	学校の教育活動と関係機関等と連携した学校経営

- 11 **記念講演** 講 師 元ノルディック複合オリンピック選手 阿 部 雅 司 氏
演 題 『オリンピックと学校教育』（予定）
- 12 **情勢報告** 全日本中学校長会会長 山 本 聖 志 氏

第69回全日本中学校長会研究協議会鳥取（米子）大会に向けて

- 1 **研究協議会主題**
『社会を生き抜く力を身に付け、未来を切り拓く日本人を育てる中学校教育』
- 2 **主 催** 全日本中学校長会 中国・四国中学校長会連絡協議会
- 3 **主 管** 鳥取県中学校長会
- 4 **後 援** 文部科学省 鳥取県 鳥取県教育委員会 米子市 米子市教育委員会 他
- 5 **期 日** 平成30年（2018年）10月24日(水)、25日(木)、26日(金)
- 6 **会 場** 第1日 米子コンベンションセンター ANAクラウンプラザホテル米子
第2日 米子コンベンションセンター 米子市文化ホール 米子ワシントンホテルプラザ 他
第3日 米子コンベンションセンター
- 7 **分科会** 【北海道地区担当分】
〈第4分科会研究題 体力の向上と生涯にわたって運動に親しむ資質・能力を育てる教育の充実〉
提案者 せたな町立瀬棚中学校 酒 井 豊 志 校長（檜山地区）
函館市立青柳中学校 松 田 賢 治 校長（函館市地区）
司 会 今金町立今金中学校 松 原 真 一 校長（檜山地区）
函館市立恵山中学校 中埜渡 信 裕 校長（函館市地区）

8 全体日程

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
第1日	24日 (水)		受付	全 日 中 常任理事会	受付	全日中理事会	受付	分 科 会 運営委員会		受付	歓迎の集い レセプション	
第2日	25日 (木)	受付	開会式	文科省説明	全体協議会	昼 食 ・ 移 動	8分科会(8会場)					
第3日	26日 (金)	受付	アトラクション	全体会	記念 講演	閉会式						

- 9 **記念講演** 講 師 株式会社モンベル会長／米子・大山観光大使／登山家・冒険家 辰 野 勇 氏
- 10 **アトラクション** 内 容 大山僧兵太鼓
出 演 大山僧兵太鼓保存会

平成30年度 地区別教育経営研究会計画

道中経営部・道小経営部

地 区	開催地	会 場	開 催 日 程		担 当 者		形 態
			月日(曜)	時 程	氏 名	勤 務 校	
旭 川 小	旭 川 市	神楽公民館	7月30日(月)	13:00～14:30	高 橋 一 寛	旭 川 市・向陵小	小 独
旭 川 中	旭 川 市	神楽公民館	7月30日(月)	13:30～15:00	藤 原 淳	旭 川 市・桜岡中	中 独
上 川	旭 川 市	ときわ市民ホール	7月30日(月)	13:30～16:00	藤 弘 のぞみ	上 川 町・上 川 小	共 催
宗 谷	稚 内 市	稚内総合文化センター	7月31日(火)	9:00～11:30	本 間 一 臣	稚内市・稚内東中	共 催 法制研と併催
日 高	新冠町	新冠町レ・コード館	8月6日(月)	9:00～12:00	前 田 周 一	新冠町・朝日小	共 催 法制研と併催
小 樽	小 樽 市	小樽ジブラルタ生命ビル	8月7日(火)	13:00～15:00	谷 本 慎 司	小 樽 市・銭函小	共 催
後 志	俱知安町	ホテル第一会館	8月7日(火)	13:00～15:45	荒 木 俊 行	仁木町・銀山小	共 催
根 室	中標津町	トーヨーグランドホテル	8月22日(水)	9:00～12:00	野 呂 幸 生	羅臼町・羅臼小	共 催
釧路・釧路市	釧 路 市	釧路教育研究センター	8月24日(金)	13:00～16:00	佐 藤 毅	厚岸町・真龍中	共 催
札 幌 中	札 幌 市	ホテルライフオート札幌	9月5日(水)	13:00～14:45	中 村 邦 彦	札幌市・伏見中	中 独
渡島・函館	函 館 市	函館競輪場テレシアター	9月6日(木)	13:30～16:00	小 川 弘	函館市・戸倉中	共 催
胆 振	登 別 市	登別市民会館	9月13日(木)	13:00～16:15	片 倉 徳 生	登別市・登別小	共 催 法制研と併催
留 萌	羽 幌 町	羽幌町役場	9月26日(水)	10:00～15:15	小 澤 真 弓	苫前町・苫前小	共 催
オホーツク	北 見 市	端野公民館	9月26日(水)	13:00～16:30	徳 増 秀 隆	北見市・上常呂小	共 催
檜 山	厚沢部町	厚沢部町町民交流センター	9月28日(金)	9:15～16:30	田 澤 利 行	乙部町・乙部小	共 催 法制研と併催
石 狩	北広島市	石狩教育研修センター	10月2日(火)	13:30～16:00	山 崎 信 哉	恵庭市・恵み野旭小	共 催
十勝・帯広	幕 別 町	幕別百年記念ホール	10月10日(水)	12:50～16:40	高 山 亮 司	陸別町・陸別中	共 催 法制研と併催
空 知	岩見沢市	ホテルサンブラザ	10月16日(火)	13:00～16:30	岡 山 宏 文	三笠市・三笠小	共 催 法制研と併催
札 幌 小	札 幌 市	ホテルライフオート札幌	10月22日(月)	14:00～16:45	磯 島 年 成	札幌市・山鼻小	小 独 法制研と併催

道中事務局日誌

月 日	曜	業 務	時間	場 所
6. 9	土	日本教育会北海道支部総会・講演会 (橋本, 高橋, 和田, 副会長)	13:00	ホテルライフオート札幌
12	火	北海道男女平等参画審議会 (木村)	10:30	赤 レ ン ガ 庁 舎
13	水	十勝教育局・帯広市教育委員会訪問 (橋本, 高橋, 和田, 木村)	13:30	十勝教育局・帯広市教育委員会
15	金	北海道PTA連合会第10回役員会・30年度役員予定者会・30年度正副委員長予定者会・新旧役員交流会 (三浦(崇), 佐藤)	13:00	ホテルポールスター札幌
16	土	北海道PTA安全互助会総会・北海道PTA連合会第1回理事会・平成30年度定期総会 (三浦(崇), 佐藤)	10:00	ホテルポールスター札幌
20	水	「北海道教育の日」総会 (高橋)	16:00	ホテルライフオート札幌
23	土	日本教育会総会 (橋本, 高橋)	13:00	東京お茶の水ホテルジュラク
30	土	道P第1回役員会・第1回正副委員長会・第1回常置委員会・第2回ブロック連絡会・役員理事懇親会 (佐藤)	10:00	ホテルポールスター札幌
7. 4	水	北海道学校給食研究協議会総会 (山田)	14:00	学 校 給 食 会
5	木	第4回事務局研修会 (五役, 筆頭副会長, 幹事, 専任職員)	10:30	ばらと北 1 条ビル

発行者 会長 橋本 直樹

事務局 札幌市中央区北 1 条西 3 丁目

北海道中学校長会

敷島プラザビル 4 F

TEL011-251-1344 FAX011-251-1302

編集者 道 中 情 報 部

http://www.dochu-kochokai.jp

本誌の発行にあたっては、作成方法等の見直しにより経費の削減に努めています。